



医療法人伯鳳会  
大阪中央病院

「虹」

Vol.11

2022.9月



特集

大阪中央病院に吹き込む新しい風

消化器内科の内視鏡治療と整形外科の肩関節治療

雷神



風神



4月に赴任された消化器内科の山本部長と整形外科の林田顧問により、  
当院で出来る低侵襲治療が広がりました。

今回は両先生から当院での新しい風を説明していただきます。

## 整形外科

### 肩の痛みで困っていませんか？

肩の痛みで困っている患者さんは非常に多く、痛みが続くと、肩こりや睡眠障害を起こしやすく、イライラ感や倦怠感が起こりやすくなります。病気としては、五十肩（拘縮肩）や腱板断裂、変形性関節症などたくさんの方があります。

#### 主な病気の種類



#### 1) 五十肩（拘縮肩、肩関節周囲炎）

使い過ぎや、外傷をきっかけにして起こることが多いです。最初は症状が軽いので、気が付かないことが多く、関節の動きが悪くなり、痛みが強くなって初めて病気に気づく患者さんがほとんどです。

動きが悪くなって、手が背中に届かなくなると、就眠中に痛みが出はじめ生活がづらくなります。治療は適切なリハビリ（ストレッチ訓練）です。1日に3～5回ぐらい行うことが必要で、医師や理学療法士が指導し、ご自身でリハビリすることになります。リハビリがうまく進まない時は、患者さんと相談し手術治療を行うこともあります。

#### 2) 変形性肩関節症

老化やケガで関節の軟骨が壊れると、関節のすり合わせがうまくいかなくなり、肩の痛みと動きの制限が起こります。リハビリや注射で一時的に症状を改善できますが、最終的には人工関節で治療することになります。

当院では肩関節専門医による正確な診断を行い、適切な保存的治療（リハビリや注射および投薬）や手術治療を提供します。詳しい病気と治療内容の説明とを行い、患者さんと相談しながら治療を進めていきます。3か月以上肩の痛みで悩んでおられる方は、気軽に受診してみてください。

#### 3) 腱板断裂

腕の骨（上腕骨）を支える筋肉（腱板筋）は、使い過ぎや老化で弱くなるので、大きい負担（転倒や重量物の保持）がかかると断裂することがあります。腱板断裂が起こると、肩の能力が落ちるので、物をもって腕を上げると痛むなど負担をかけると痛みが出ます。診断にはMRIが有用で、断裂の大きさや筋肉の傷み具合を評価できます。リハビリで痛みを少なくすることはできますが、腱を直すには手術が必要になります。関節鏡（内視鏡）を用いて、小さい傷で治療可能ですが、縫合した腱がしっかりするのに3～6か月かかるので、患者さんの努力が必要になりますが、完治するとスポーツも可能な肩になります。

整形外科顧問 林田 賢治

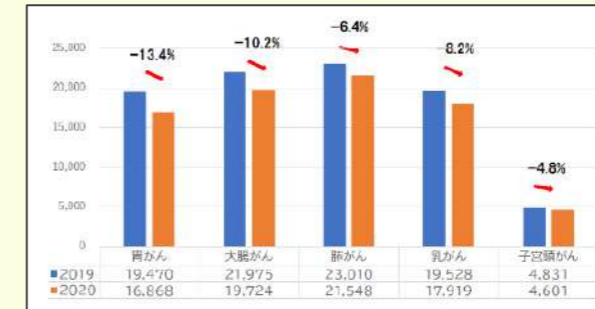
## 消化器内科

### がん検診・定期検査を！



近年の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、がん検診受診者数は、2019年度と比べ2020年度は27.4%、2021年度は10.3%と減少し、検診の受診控えが起っています。また日本対がん協会の調査では、2020年はがん自体の診断や早期がんの発見の減少がみられ、特に自覚症状が少なく、検診などでの発見率の高い早期の癌の減少率が大きい傾向にあります。胃がんや大腸がんは早期に見つければほぼ治すことができますが、今後早期での発見の遅れから、進行がんの増加や予後の悪化などが危惧されています。

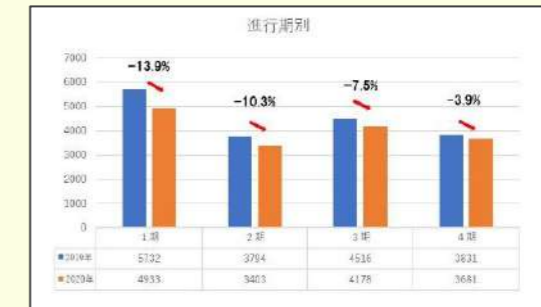
●がん診断数の比較（2019年と2020年）



●胃がん



●大腸がん



（日本対がん協会より）

また検診を受け要精査判定となったが、コロナが心配で検査が怖いなどで受診機会を逃している方もいます。検査は換気や機器の消毒、事前の問診、予約時間の調整などコロナ対策を行い、感染対策をしっかりと行いながら、安全かつ安心な内視鏡診療を行っていますので、必要な検査は受けるようお願いいたします。

ピロリ菌除菌治療後や大腸ポリープ切除後の方も定期的な内視鏡検査が必要です。ピロリ菌は胃がんや胃十二指腸潰瘍の原因と考えられ、除菌治療を行うことで胃がんや潰瘍の発症リスクを減らすことができますが、胃がん発症が“ゼロ”になるわけではないため、1～2年ごとの定期的な内視鏡検査により胃がんの早期発見が望めます。また大腸ポリープも切除後に再発することが多く、大腸がんの予防にはポリープの段階で切除しておくことが望まれ、3～5年ごとの内視鏡検査が推奨されています。大腸内視鏡検査では男性医師の検査に抵抗がある方は、女性医師による検査も行っていますので、お気軽にご相談ください。

ウイズコロナの時代になりつつありますが、コロナ禍で検診や定期検査をしばらく受けられていない方は、検診・定期検査の受診をご検討ください。

消化器内科部長 山本 光成



## 地域との架け橋へ 青いハートの「おせっかい」の輪

令和3年8月より誰もが暮らしやすい社会を目指す「プラスハートアクション」を伯鳳会グループの全施設で開始し、青いハートの「おせっかい」にご賛同企業様も様々なお取組みをされています。

ヘルプマスクに次ぐ第2弾のグッズ展開として、  
コラボリストバンドが完成いたしました。



### COEDO KAWAGOE F.C. × Plus Heart Action

「青いハート」をデザインした  
ラバーバンドを製作  
サポートする方の意思表示のサインに

このラバーバンドの製作費を除く売上の50%は、  
川越を中心とする社会福祉団体へ寄付されます。

### 最明寺 × Plus Heart Action

本堂を青い光でライトアップ  
青いハート御朱印の授与  
青いハートをイメージした花手まりの販売  
彩乃菓(連雀町)の「ブルーハート和菓子」の進呈  
イベント開催は8月10日で終了しました。



### 編集後記

異動の4月からほぼ半年が過ぎました。当院でも医師を含めたスタッフの変更がありました。新任の先生方によって、胃がんのEMR(内視鏡的粘膜切除術)や肩関節手術などの新風が吹き込まれています。これからもどんどん新風を受け入れる病院を目指します。

### 病院レポート 「虹」

2022年9月発行 Vol.11

編集・発行

医療法人伯鳳会大阪中央病院  
広報委員会

〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-30

TEL 06-4795-5505(代表)

FAX 06-4795-5544

◆地域連携・入退院支援センター

TEL 06-4795-5533(直通)

FAX 06-4795-5535(専用)

### その車は、走る病院。

#### 災害医療車「Medical-ConneX」メディカル・コネクス

医療法人 伯鳳会がコンセプトを描き、第一号車を導入した  
災害医療対応のモビリティ・ソリューション。  
世界初(※)の免疫・生化学検査機器とCTを同時搭載し、  
COVID-19などの感染症にも対応が可能。  
検査車両と電源車両からなり、水やエネルギーの外部補給も不要。  
AI診断とITを駆使し、災害医療支援を即座に展開する。



※CT装置と生化学・免疫装置を同時搭載した移動型医療ソリューション。シーメンスヘルスケア調べ



病院ホームページ

医療をつなぎ、未来をつなぎ。多くの命を救うために。



伯鳳会グループ  
HAKUHOKAI GROUP



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

#青いハートがあふれる社会を



医療法人伯鳳会  
大阪中央病院  
HAKUHOKAI Osaka Central Hospital

